

Eat Well, Live Well.



「持続可能な食品物流」を目指して



AjiPanda

ホワイト物流推進会議
2022年10月20日（木）

味の素株式会社
食品事業本部 物流企画部
物流基盤グループ
森 正子

Eat Well, Live Well.



「持続可能な食品物流」を目指して

1. 会社紹介
2. 物流業界の現状
3. 「ホワイト物流」推進運動 自主行動宣言
4. 当社の取り組み

1. 会社紹介



Eat Well, Live Well.



うま味成分の発見から始まった味の素グループは
世界No.1アミノ酸メーカーとして、さまざまな事業を行っています。



調味料・食品

100年以上に渡って築かれたブランド力、マーケティング力、研究開発力を強みに、生活者の多様なニーズを捉え、これに応えることで価値創造を実現しています。



冷凍食品

グローバルな製品開発・生産・販売体制、マーケティング力、ブランド力を強みに、現地の生活者の嗜好に合うおいしさと栄養改善に貢献する製品・サービスを提供しています。



ヘルスケア等

先端バイオ・ファイン技術を活かしたアミノ酸の生産力、レギュレーション対応力、サービス提供力を強みに、多様で特徴ある素材・原薬・技術を世界中の医薬や化粧品・トイレタリー企業などに提供しています。

1. 会社紹介

アミノ酸をベースにした事業展開



プラットフォーム技術

分析

品質保証

酵素改変

微生物育種

単離・精製

化学合成

製造
スケールアップ

造粒・加工

2. 物流業界の現状



運べなくなる危機！

物流をとりまく危機的環境＋嫌われる加工食品物流＋2024年問題

嫌われる加工食品物流

- ①納品先での**長時間待機**(全産業中ワースト1)
例) 30分で済む下ろし時間に7時間待ち！
- ②ドライバーの運転以外の作業が多い(**附帯作業**)
例) 積み/下し、積替、フォークリフト運転
- ③**厳しく、複雑な日付管理・納品期限管理**
例) ロット逆転防止のための多頻度検品
- ④短い**リードタイム**(受注翌日配送、夜間作業)
- ⑤非効率で、非合理的な**悪しき商慣行**
例) 納品場所での棚入れ、ドライバー作業を見込んだ納品先合理化
- ⑥**小ロット多品種多頻度納品**

～潤沢に人がいた時代はできていたが……

ドライバー不足(物流従事者不足)

- ・2027年には需要の27%が不足
(全産業比で賃金が2割安く、労働時間が2割長い)
- ・EC等で荷物量は伸長

SDGS、環境問題(CO2)

災害の激甚化・多頻度化

- ・大雨洪水、台風、大雪、地震

行政の監督強化・法令順守の厳格化

働き方改革 ⇒2024年問題

コロナ＝新しい生活様式

- ・非接触、非対面など

2. 物流業界の現状



「持続可能な加工食品物流を構築」するために＝製品をお客様に確実にお届けするために

最初は

「配送業者に選ばれる荷主に」

味の素(株)内の物流改革

物流費管理の高度化
モーダルシフト

1社だけでは無理

水平連携(＝メーカー連携)

- ・F-LINEプロジェクト、SBM会議
- ・F-LINE株式会社設立

共同輸・配送
物流会社の設立

メーカーだけでは無理

垂直連携(＝製・配・販)

- ・日食協、各小売団体との連携

製配販課題解決に向けた
取り組み

食品業界だけでは無理

斜め連携(＝行政当局、業界団体)

- ・国土交通省：総合物流施策大綱
(国の物流中期計画に参画)
- ・経済産業省：フィジカルインターネット実現会議
(業態別分科会に参画)
- ・農林水産省：日食協他と一緒に定期的意見交換
- ・国家プロジェクト：内閣府主導「SIP」
(SIP＝戦略的イノベーション創造プログラムの
スマート物流サービスに参画)

標準化本格化

次に

「食品物流を選ばれる職種に」

今では

商慣習の見直し含め
「日本の物流を進化」
させなければならない

3. 「ホワイト物流」推進運動 自主行動宣言



「ホワイト物流」推進運動 持続可能な物流の実現に向けた自主行動宣言

企業・組合名	役職	氏名	所在地	主たる事業	ホームページ
味の素株式会社	取締役 代表執行役社長	西井 孝明	東京都	製造業	https://www.ajinomoto.co.jp

当社は、「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、以下のように取り組むことを宣言します。

最終更新:

2021/9/15

（取組方針）

・事業活動に必要な物流の持続的・安定的な確保を経営課題として認識し、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、取引先や物流事業者等の関係者との相互理解と協力のもとで、物流の改善に取り組めます。

（法令遵守への配慮）

・法令違反が生じる恐れがある場合の契約内容や運送内容の見直しに適切に対応するなど、取引先の物流事業者が労働関係法令・貨物自動車運送事業関係法令を遵守できるよう、必要な配慮を行います。

（契約内容の明確化・遵守）

・運送及び荷役、検品等の運送以外の役務に関する契約内容を明確化するとともに、取引先や物流事業者等の関係者の協力を得つつ、その遵守に努めます。

3. 「ホワイト物流」推進運動 自主行動宣言



No.	分類番号		取組項目	取組内容
①	A	①	物流の改善提案と協力	荷待ち時間の解消や運転手の附帯作業の削減等について、物流事業者（F-LINE㈱及びその協業会社）と真摯に協議し、着荷主に対しても必要な提案を行います
②	A	⑩	リードタイムの延長	発荷主として着荷主と調整しリードタイムの延長に積極的に取り組みます
③	D	①	荷役作業時の安全対策	物流事業者が荷役作業を依頼する場合は、労働災害の発生を防止するため、安全な作業手順の明示、安全通路の確保、足場の設置等の対策を講じることに努めるとともに、着荷主に対しても同様の要求を行っていきます
④	D	②	異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、豪雨、豪雪等の異常気象が発生した際やその発生が見込まれる際には、無理な運送依頼を行いません。また、運転者の安全を確保するため、運行の中止・中断等が必要と物流事業者が判断した場合は、その判断を尊重します
⑤	F	①	共同配送の展開による物流効率化	F-LINE㈱を発足させ、出資各社等の荷物の共同配送の展開をすすめ、積載率の向上、配送効率の向上など物流事業者にとっても有益な取り組みを進めます
⑥	F	①	各事業団体、官公庁との課題解決プロジェクトの推進	それぞれの立場では解決できない物流課題について、事業者団体において物流課題解決プロジェクトを組織し、物流事業者にとっても有益な運動を進めます。官公庁に対しても積極的な提案を行っていきます
⑦	F	①	納品伝票電子化の推進	現在広く普及している複写式の紙納品書の電子化を推進することにより、物流事業者と着荷主の伝票発行・保管・検索等の業務の効率化に取り組みます
⑧	F	①	外装サイズ標準化の推進	商品の外装サイズの標準化を推進することにより、パレット積載率の向上、輸送効率等の向上に取り組みます
PR欄			2019年4月に食品会社5社によりF-LINE㈱を発足させました。今後も荷主の立場だけでなく、物流事業者であるF-LINE㈱とも協力して、各種物流課題の解決に取り組んでいきたいと思っています	

4. 当社の取り組み



物流企画部 組織・マネジメントポリシー

物流企画部 42名

スタッフG 9名

- ・部内総括
- ・各種プロジェクト窓口
- ・業界標準化対応

物流基盤G 15名

- ・国内食品 物流費、ネットワーク管理
- ・AEO、貿易管理
- ・物流品質、環境（廃棄）

物流G 17名

- ・国内食品 受注管理
- ・イオンRDC寄託在庫管理

ミッション：持続可能な加工食品物流の構築

ビジョン：働きやすい物流環境・スマート物流の構築
 「簡素で滑らかな物流」「担い手にやさしい物流」
 「強くてしなやかな物流」実現（総合物流施策大綱から引用）

【提供価値】

- ・確実に運ぶ
- ・確実に届ける
- ・労働環境改善

日本のSCM全体へ貢献する

他社・他業種に波及

当社による
物流環境改善

【顧客】

生活者・お取引先様・物流従事者

企業価値の向上
ASVの実現

ASVとは、

Ajinomoto Group
Shared
Value の略

創業以来私たちが掲げている
「事業を通じて社会課題を解決し、社会と価値を共創する」という理念

4. 当社の取り組み SDGsとの結びつけ



■トレードオフをトレードオンにするチャレンジ

持続可能な加工食品物流の構築において、下記取り組みに加え、様々な物流効率化を推進することで、新たな価値が創出され、これらがサステナビリティ活動の推進を実現することとなる。

SDGs17のゴール	項目	重点取り組み
	栄養改善の 取り組み	お客様に商品をお届けすること 持続可能な加工食品物流の構築
  	CO2削減	モーダルシフト率90%超への挑戦 中距離モーダルシフト可能性追求 積載率向上の取り組み 共同配送エリアの拡大 ⑥
  	プラスチック 廃棄物削減	伝票電子化実装拡大とエコシステム構築 ⑦ ペーパーレスFAX 外装課題解決プロジェクト推進 ⑧
  	フードロス削減	納品期限の緩和の一律実施 (製配販連携協議会、FSPでの活動)
	働き甲斐	ASVの実践 ビジョン達成に向けた部内取り組みの再構築と 業界全体視点からの価値連鎖の理解と貢献

4. 当社の取り組み



物流企画部 組織目標

■行政の動き(総物流施策大綱、フィジカルインターネット実現ロードマップ)
を踏まえ、当社は目指すべき姿をあらためて設定し、取り組みを再整理

大目標: 持続可能な加工食品物流の構築

日雑業界含め日本全体へ

ドライバー不足の解消

中目標: スマート物流<データプラットフォーム構築>

【強くてしなやかな物流】
～止めない物流～

- 物流費マネジメントの高度化・デジタル化
・「ひと山いくら」からの脱却
「見える物流費」へ
・物流費タリフの抜本的改定へ
⇒改善結果が反映される料金体系へ
- 安定した物流オペレーション
・BCP対応と当社製品の確実で高品質な配送実現

④

【担い手にやさしい物流】
～足元課題の解決～

- 納品リードタイム延長
- 長時間待機撲滅
- 附帯作業撲滅・安全対策
- ASN検品レス
- 納品期限の緩和
1/3⇒1/2ルールへ

②

①

①③

【簡素で滑らかな物流】
～標準化推進～

- 納品伝票電子化
伝票エコシステム構築
- 外装サイズ標準化
外装課題解決プロジェクト
2021年10月始動
- コード体系標準化
GS1標準コード導入
- 外装表示の標準化
味の素社策定
「外装表示ガイド
ライン」の普及浸透

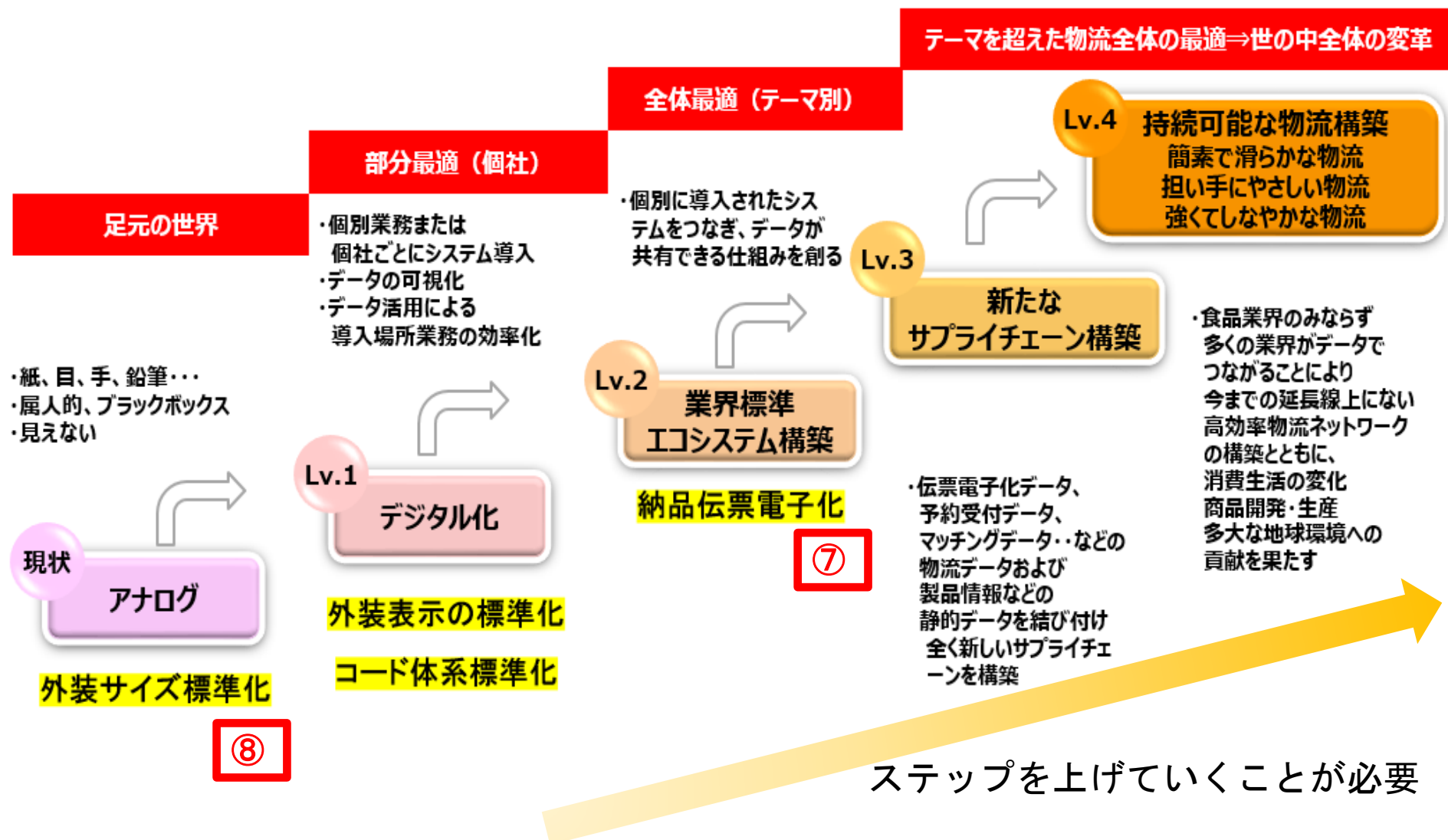
⑦

⑧

4.当社の取り組み



持続可能な加工食品物流構築実現にむけたステップ

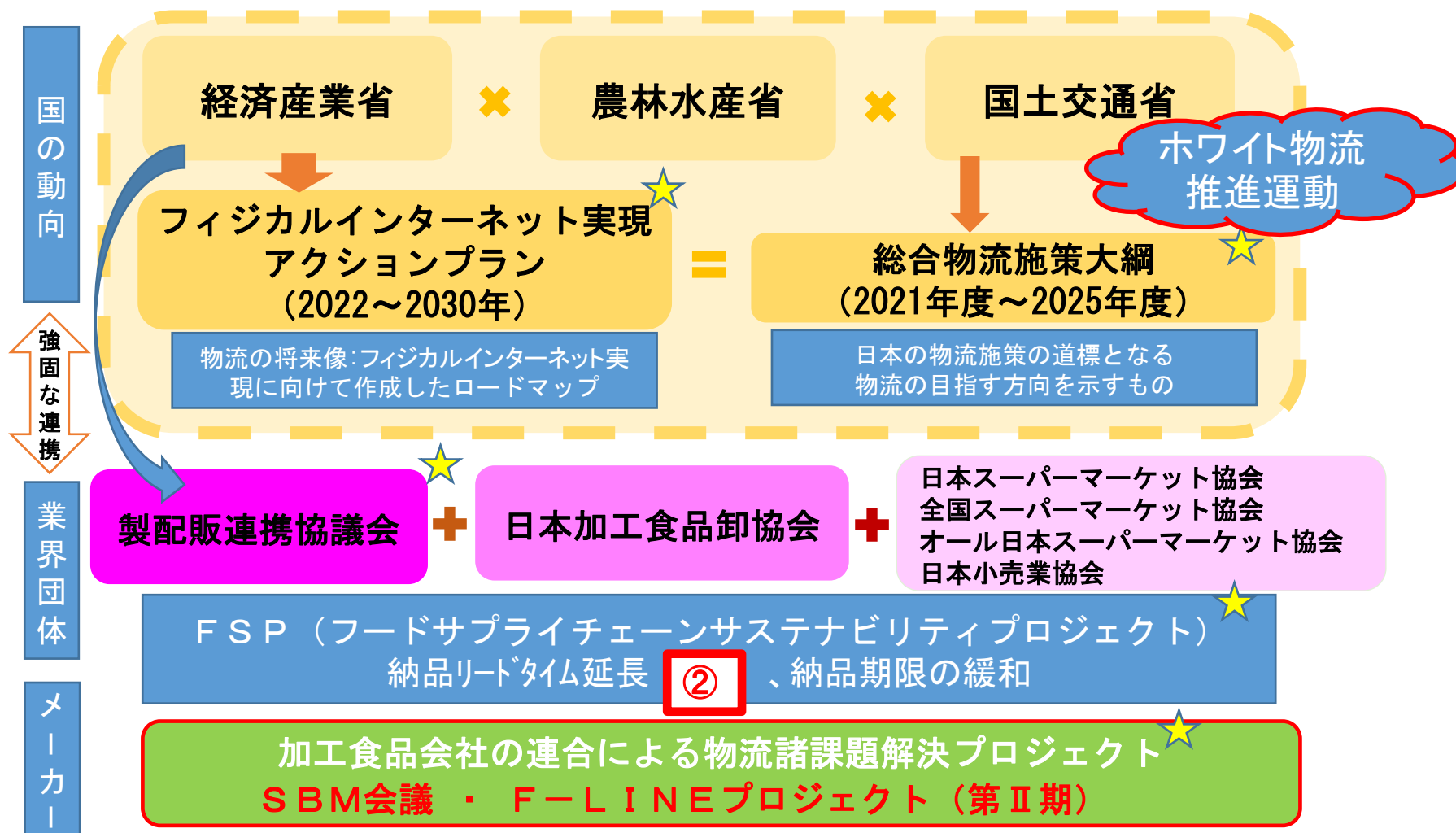




4.当社の取り組み

各事業団体、官公庁との課題解決プロジェクトの推進

⑥





4.当社の取り組み

製配販 3 層の新たな取り組み

F S P (フードサプライチェーンサステナビリティプロジェクト)

販 (小売業)

- 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会 (JSA)
- 一般社団法人 全国スーパーマーケット協会 (NSAJ)
- オール日本スーパーマーケット協会 (AJS)

配 (卸売業)

- 一般社団法人 日本加工食品卸協会 (NSK)

製 (製造業)

食品物流未来推進会議 (SBM)

味の素、カゴメ、キッコーマン食品、キューピー、日清オイリオ、日清製粉ウェルナ、ハウス、ミツカン



4. 当社の取り組み

「持続可能な加工食品物流」の構築を進める上で、製配販各層が取り組むべき施策

【販（小売業）】

- 小売⇒卸間での**定番発注締時間の前倒し**
- 特売、新商品の適正リードタイム日数確保と計画数量化・追加の抑制
- 賞味期間180日以上の商品について、**納入期限を賞味期間2分の1残しへの統一化**

【配（卸売業）】

- メーカー発注の原則EDI化、緊急対応等、負荷業務の抑制
- リードタイム延長に伴う需要予測精度向上に努める
- リードタイム延長による一定の在庫増加リスクへの柔軟な対応

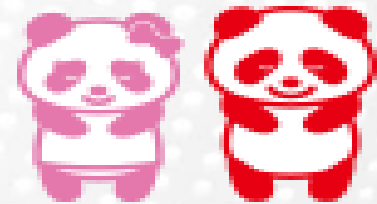
【製（製造業：メーカー）】

- リードタイム延長を前提とした受注締め時間の後倒しの取組み**（第1ステップ：13時受注）
- リードタイム延長実施と合わせた、柔軟な緊急対応の許容

2022年9月29日にフードディストリビューションにて
パネルディスカッション実施

当日利用資料は、日本加工食品卸協会HPに掲載あります！

Eat Well, Live Well.



AjiPanda

Thank you.